

土曜

# ASHUREY CLASS

原文で味わう詩篇23篇

תהלים

No.2 2025. 11. 15

# 「詩篇」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】ヨハネの福音書5章39～40節

39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。

その聖書は、わたしについて証しているものです。

40 それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。

●イエシュアは私たちに聖書を正しく解釈することを教えています。それはイエシュアという鍵を入れ込むことで、初めて言わんとすることが見えて来るということです。詩篇もそのように、**預言的、奥義的、重層的**に読んで行きたいと思えます。詩篇の多くはダビデによるものですが、イエシュアはダビデよりも前におられる先取的存在です。つまり、ダビデはイエシュアを証しするために存在させられているのです。

# 1. テキスト

## 【新改訳2017】 詩篇23篇      ダビデの賛歌

- 1 主は私の羊飼いです。私は乏しいことはありません。
- 2 主は私を緑の牧場に伏させ    いこいのみぎわに伴われます。
- 3 主は私のたましいを生き返らせ  
御名のゆえに    私を義の道に導かれます。
- 4 たとえ    死の陰の谷を歩むとしても    私はわざわざを恐れません。  
あなたが    ともにおられますから。  
あなたのむちとあなたの杖    それが私の慰めです。
- 5 私の敵をよそに    あなたは私の前に食卓を整え  
頭に香油を注いでくださいます。私の杯は    あふれています。
- 6 まことに    私のいのちの日の限り  
いつくしみと恵みが    私を追って来るでしょう。  
私はいつまでも    主の家に住みます。

## 2. 「人称」①

【新改訳2017】 詩篇23篇      ダビデの賛歌

- 1 主は私の羊飼いです。私は乏しいことはありません。
- 2 主は私を緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われます。
- 3 主は私のたましいを生き返らせ、御名のゆえに、私を義の道に導かれます。
- 4 たとえ、死の陰の谷を歩むとしても、私はわざわざいを恐れませんが、あなたとともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。
- 5 私の敵をよそに、あなたは私の前に食卓を整え、頭に香油を注いでくださいます。私の杯はあふれています。
- 6 まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みが私を追って来るでしょう。私はいつまでも、主の家に住みます。

## 2. 「人称」②

●詩篇23篇は「主」と「私」という人称しかありません。4～5節では「主」が「あなた」に置き換えられています。この詩篇は「主と私のかかわり」を語っている詩篇です。

●ところで、ここにある「私」とは誰のことを指しているのでしょうか。表題にはダビデによるとありますから、ダビデだと思ってしまいます。ところが、「詩篇」を学ぶ上で大切な視点として「詩篇の多くはダビデによるものですが、イエシュアはダビデよりも前におられる先取的存在です。つまり、ダビデはイエシュアを証しするために存在させられているのです」という前提で見ると、この視点は「御父と御子のかかわり」を歌った詩篇と見ることができます。

## 2. 「人称」 ③

- ルカの福音書に、12歳のイエシュアが記されています。

【新改訳2017】ルカの福音書 2章49節

すると、イエスは両親に言われた。「どうしてわたしを捜されたのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当然であることを(=必ずいることを)、ご存じなかったのですか。」

- イエシュアの人としての生涯は、最初から「自分の父の家にいる」ことであり、父の仕事をしていたのです。人としてのイエシュアは、やがて私たちがキリストにある新創造である「霊の中に生きる」ことの模範です。ですから、詩篇23篇を「御父と御子の麗しいかかわり」を「羊飼いと羊の関係」の類比として味わうことができるのです。

### 3. 詩篇における信仰告白 ①

● 詩篇23篇1節「主は わたしの羊飼ひ」は、信仰告白です。  
信仰告白の表現形式としては、以下の二通りがあります。

#### (1) 「・・・の方(神)」という表現形式

- 例：①「天の御座についておられる方」(2:4, 123:1)  
②「大いにあがめられる方」(47:10)  
③「大いにほめたたえられるべき方」(48:1, 96:4, 145:3)  
④「恐るべき方」(76:7,11) etc.

#### (2) 「主(神)は、私の・・・」という表現形式

- 例：①「私の盾」(3:3,18:2・・・) ②「私の避け所」(46:1, 61:3・・・)  
③「私の隠れ場」(32:7・・・) ④「私の力」(18:1, 28:7・・・)  
⑤「私の望み」(39:7・・・) ⑥「私の羊飼ひ」(23:1)  
⑦「私の味方」(56:9・・・) ⑧「私の信頼の的」(71:5)

### 3. 詩篇における信仰告白 ②

- 「嘆きのうた」「賛美のうた」「礼拝への招きのうた」「感謝のうた」「信頼のうた」「教訓・知恵のうた」等に共通する大切な要素として「**信仰告白**」があります。それは、神が個人においても、共同体においても、いかなるお方であるかの告白です。
- 信仰告白は「嘆きのうた」では勝利の転換点となり、「賛美のうた」では神の臨在がより強く現わされる力となります。信仰告白は、いわば神の約束に対する霊の現れなのです。

神の約束 + 信仰 = 主にある安息

神の約束 + 不信仰 = 不安と恐れ

## 4. 「羊飼いと羊の関係」 ①

●詩篇23篇は「御父と御子の麗しいかかわり」を「羊飼いと羊の関係」、すなわち「主と私」として歌っています。ですから、「私」のことを「自分」のことではなく、「イエシュア」として味わうべきです。私たちがそのイエシュアの中へと信じる時に、その関係が実体化し、「いのちを得る」ことになるのです(ヨハネ5:39)。聖書はイエシュアのこと証しされているとは、そのことを指しているのです。

●羊飼いと羊の関係は、御父と御子の永遠のゆるぎないかかわりを類比するたとえです。そこでは、互いに互いのことを「知っている」という愛のかかわりです。これが、ヨハネが言わんとする「永遠のいのち」です。この関係を羊の側から言うなら、「いのちの源泉を持っている」ということになります。これが「恥を見ない」ということです。

## 4. 「羊飼いと羊の関係」 ②

- 「羊飼いと羊のうるわしい関係」がもたらす恩寵として、「(私は)乏しいことはありません」(ロー・エフサール：הָרַסְתִּי לֹא )と告白されています。「乏しい、不足している」を意味する「ハーセール」(הָרַסְתִּי)が、強い否定辞(ロー：לֹא)を伴って否定されています。積極的表現に換言するなら「私は主によって満ち足りている」ということです。それに相当するヘブル語は「シャーヴァ」(שָׂבַע)です。
- 羊にとって「飼われる」とは、豊かな食物によって養われることだけでなく、あらゆる危険から救い出され、守られることをも意味します。その意味で「乏しいことがない」のです。

## 5. 「満ち足りる」

●使徒パウロは「満ち足りる」ことについて、以下に語っています。

【新改訳2017】ピリピ人への手紙4章11～13節

11 乏しいからこう言うのではありません。

私は、どんな境遇にあっても満足する(アウタルケース：αὐτάρκης)ことを学びました。

12 私は、貧しくあることも知っており、富むことも知っています。

満ち足りること(コルタゾー：χορτάζω/不定詞)にも飢えることにも、

富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。

13 私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできるのです。

●11節の「満足する」はこの箇所しか使われていませんが、12節の「満ち足りる」は16回です。多くが「パンを食べて満足した」で使われていますが、神の口から出ることばで生きることによって「満たされる」ことを意味しています。また「義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りる」とも約束されています。

## 6. 「恥を見ることがない」 ①

●旧約では「恥を見る」と「恥を見ない」という語彙が使われています。「恥を見る」とは偶像を信じることでもたらされるのに対して、「恥を見ない」とは主を信頼し、主を待ち望むことでもたらされます。

①エレミヤ書 17章13節

イスラエルの望みである主よ。あなたを捨てる者は、みな恥を見ます。

②詩篇 31篇1節、71篇1節

主よ 私はあなたに身を避けています。私が決して恥を見ないようにしてください。

③イザヤ書 45章17節

イスラエルは主によって救われ、永遠の救いに入れられる。

あなたがたは恥を見ることも辱めを受けることもない。永遠に至るまで。

④ヨエル書2章27節

あなたがたは イスラエルの真ん中にわたしがいることを知り、わたしがあなたがたの神、主であり、ほかにはいないことを知る。わたしの民は永遠に恥を見ることはない。

## 6. 「恥を見ることがない」②

- 「恥」を意味するヘブル語は「ボーシュ」(בוש)で「源泉が涸れる」ことを意味します。それが「恥を見る」ことになるのです。
- 詩篇23篇の「私」は「乏しいことはありません」と告白しています。御子イエシュアに内には、御父のいのちの源泉が絶えることはありませんでした。そのイエシュアがこう言っています。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、**その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります**」(ヨハネ7:37~38)。「生ける水の川」とはイエシュアの「いのちを与える御霊」です。このことがすでにイエシュアの復活によって「息を吹きかける」ことで実現しています。それゆえイエシュアの中へと信じる者は「乏しいことがない」のです。なぜなら信仰によって実体化されるからです。

# 今回のまとめ

**「主は私の羊飼いです。私は乏しいことはありません。」**

御父と御子イエシュアとの麗しいかかわりを知り、  
そのかかわりの中へと入るために、  
キリストの「いのちを与える霊」が不可欠です。  
私たちのたましいでは、この告白は不可能です。  
旧約ではそのことを隠して、  
預言的・奥義的・重層的に語られているのです。

アドナイ・ローイー ロー・エフサール : אֲדֹנָי לֹא אֶפְסָר׃

是非、このことばを覚えましょう。